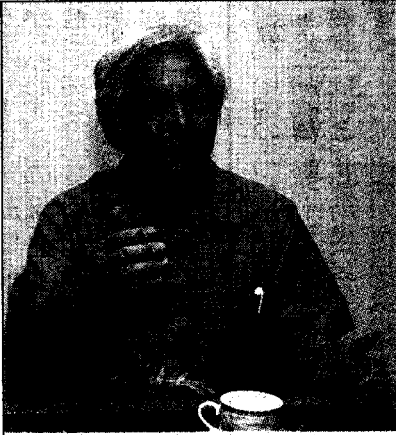


政治的な橋渡し役としても活躍 (2015/4/13)



南米へ移住し、定着した日系人の仕事ぶりについて、こう語る。

「ウチナンチュは、借金もせず、小さな仕事をコツコツとやってきた。その仕事の精神は誠心誠意。昔の沖繩の気持ちが残っている」

「自分が携わる仕事の周囲に気を配る気質が、ブラジルには今も引き継がれているという。ウチナンチュに会いたければ市場に行けばいいと言われる。小さな仕事をやって頑張っているが、自分の仕事以上に人を助ける。周りの人が強くなる、自分も強くなることを知っている」と言う。



WUBインターナショナル会長に就任した稲嶺真次さん

名護市久志出身で、ブラジルへの移住者の三世。サンパウロ市内に住み、建築の設計関係に携わる。一方で、ブラジルの議会関係者へ日系社会からの要望を伝える政治的な橋渡し役としても活躍している。

WUBインターナショナルの新会長に七日就任し、大きな初仕事が行われた。米州投資公社（IIC）との間で覚書調印式だった。国際開発金融機関であるIDB（米州開発銀行）の子会社的存在のIICは民間中小企業への投資部門を担う。相互協力の関係構築で覚書を交わした。

事業資金などで長期間の低利融資が受けられる。ウチナンチュ事業家にとって、これまでにない金融支援の機会に恵まれ、期待も高まる。

「知事がIDB総会を誘致してくれたおかげでできた」と。大きな土産を担いで戻れる」と笑みを浮かべた。

ケイコ夫人との間に娘一人。一九五〇年生まれ、五十四歳。

2015/4/14 新報

世界大会成功を報告

WUB関係者が知事と懇談



WUBインターナショナルの与那嶺真次会長やペルー沖繩真人会の関係者らが十三日、県庁に稲嶺一知事を訪ね、第九回WUB世界大会関西二〇〇五の報告と来年一月に開催する真人ペルー移住百周年記念式典などについて意見交換した。稲嶺知事はIDB（米州開発銀行）年次総会に触れ、「沖繩での開催は中南米のウチナンチュにも誇り

稲嶺一知事にWUBとIICの覚書調印を報告する与那嶺真次WUBインターナショナル会長（中央）十三日午後、県庁

りと自信になったと思う。WUBも世界に認知された」と述べた。

与那嶺会長はWUBと米州開発投資公社（IIC）が相互協力の関係構築で覚書に調印したことを報告し「大変良いことで大きな支えになる」と述べた。

WUBインターナショナル前会長の呉屋守将氏は大阪での世界大会が成功裏に終わったことを報告。「IDB総会もWUBにとつては大きなチャンス。ビジネスに結束させていきたい」と話した。

赤嶺光弘ペルー真人会顧問は「来年一月に移住百周年の式典を開く。その時は一緒にペルーでお祝いしたい」と出席を呼び掛けた。県によると、知事は参加を予定している。